

けんしゅうしましよ



教師力アップ研修～道徳研修会

講師 木原 一彰 教諭
 鳥取県大正小学校教諭
 鳥取県道徳エキスパート教諭
 教育出版 道徳教科書 著作者



子どもたちの考えで埋め尽くされた板書

模擬授業を振り返って

『授業を終えたときに、こんなことを考えてほしい。こんなことが考えられるような雰囲気になってほしい』そのことを考え、授業づくりをしている』

木原先生が授業を考える際に、まず頭に浮かべるのは上のことだそうです。その上で、次のようなことを授業づくりの際に考えられたとのことでした。



- ・導入→前提として人は間違えるもの。その上で、許せるときと許せないときの実態把握を行った。
- ・教材提示→コロナ渦の際、教材を提示するスタイルが変わった。学級の実態として、視覚情報なら入る。
- ・感想交流→自分たちで立てた問いであればあるほど主体的になっていく。今日の問いも、自分の学級で授業をした際に子どもたち自身がつくった問いである。

参観者の質問から

☆感想の交流という学習過程について

- ・必ずやるとは限らない。例えば社会事象（食糧問題・貧困など）など、道徳とは関わりのない知識を押さえたり、それに関して子どもたちに問うたりする教材の時には感想交流は入れていない。
- ・教師側が問いたいことが一つの場合は感想交流を入れる。ただそれまでに基本的な情報や知識を押さえておかないと中心には向かえないと考えた時には、教師が話すよりも子どもたちに自由に話をさせている。
- ・教師が必要なところにエネルギーを使う。子どもたちにフリーで話をさせることは悪いことではない。

☆板書の書き方について

- 本時では、例えば児童の発言の中で、児童の発言を「責任」や「覚悟」のように変換し、たくさんの価値観を板書に残していたが…
- ・教師の価値観を押しつけてしまう危険があるが、その子と話をして「それってこういうこと？」という確認をしている子だけ。関係性と会話のやりとりを大事にしている。

☆子どもから「追りたい問い」をつくるために、どのようなステップアップを？

- ・感想交流で出された意見の中から、子どもたちと今日の学習ならどんなことを学べそうかを考える。

「自分たちの感想からつくられた今日の問い」～^{うるわ}美しい感じが出てくる

☆個別の対応について

- ・学級の実態として支援が必要な子が多いので、飽きさせないためにも45分を15分×3セットとして考え、授業にめりはりをつけている。
- ・意図的に交流する時間をもうけている
(情報交換や書けていない友達に教えてあげる)
- ・「簡単だけどちょっと高い問い返し」をすることで、子どもはそれを超えてみようかなと思う。このやりとりを通して、子どもの考えを価値付けていく。」
- ・子どもの意見をメモしておくことで、意見交流をするときには手を挙げていなくても指名する。
(教師側が子どもの学びをコーディネートしていく)



授業中における木原先生の姿から

- ・となり近所で30秒ほどざっとしゃべったあと、教えてください。
- ・挙手して発言してください。
- ・大きいこと小さいことどちらでも構いません。お話しください。
- ・例えばどんなこと？
- ・ざっくりでいいです。くわしくなくていいです。
- ・同じ人どうぞ。違うニュアンスが入ると思います。
- ・悩むぐらいなら話しちゃいましょう。
- ・ポイントつくね～。
- ・書き終わったら自由に立ち歩いて自分の意見を友達に伝えてください。
- ・悩んでいる人に「こんなこと考えたんだけどさ」と教えてあげてください。



木原先生の発言を促す言葉には安心感があり、それが子どもたちの話す意欲につながっていました。また、木原先生は子どもたちの発言に対し、「なるほど!」「うんうん」のようなりアクションをし、子どもたちの言葉を受け止めていました。その際の表情もとても素敵で、子どもとのやりとりの中で様々な表情で対話していた姿がとても印象的でした。この研修を通して、道徳への考え方や授業づくりだけでなく、人として、そして教師としての在り方をたくさん学ばせていただいた1日となりました。

公開研に関わって

9月4日(月)の研修では、道徳部会・支援部会合同で指導案の交流を行いたいと思います。そこで指導案のデータが完成次第、研修部フォルダ内の「14 公開研究会(9月22日)」に入れておいてください。よろしくお願ひします。最終は9月1日(金)とします。印刷の関係上、ご協力をお願いします。